

ご記入いただき、作品と、委託の方は搬出用着払伝票（ヤマト、郵便局等）とともにご送付ください。

キャプション作成、会場やsns等で作品をご紹介する際に活用させていただきます。

※シートはご自身で作りなおしていただいてもかまいません。アンパンサイトにPDFデータあり。



作家名/フリガナ 熊谷 毅 / クマガイ ツヨシ

作品タイトル 創造のレシピ レポートリー #01 ウィワクシアもどき

素材、技法 松ぼっくり、カラスやハトの風切羽、イチョウの葉、ドライフラワー 他

制作年 2021年 都道府県 宮城県

コンセプト、作品解説（必須ではありません）

約5億5千万年前に始まる古生代の初め、カンブリア紀。極めて重要な古生物学的イベントが発生した。

「カンブリア爆発」である。それまでの時代(先カンブリア時代)の地層からは見出されなかった多種多様な生き物の化石が、カンブリア紀の地層からは多く発見されたのだ。カンブリア紀に生物の多様性が爆発的に向上したように見えることから、「カンブリア爆発」と言われる(カンブリア大爆発、Cambrian explosion : カンブリアン・エクスページョンとも)。こうした化石の産地はいくつか知られており、最も有名なところでは、カンブリア爆発より少し年代的には後になるもののカナダのブリティッシュコロンビア州にあるバージェス頁岩層が挙げられる。ここで化石が発見された数々の生き物たちはバージェス動物群(Burgess fauna)と呼ばれている。カンブリア爆発では、現在地球上で見られる生き物のほぼすべての門（分類の単位：界⇨門⇨綱⇨目⇨科⇨属⇨種）がこの時期に出現した可能性も指摘されている。

しかしこれらの生き物すべてが現在まで子孫を残してきたわけではない。化石という生きてきた痕跡を残すことはできても、子孫を残すことができず絶滅した生き物たちもいる。三葉虫しかりアノマロカリスしかり、そんな生き物たちの姿かたちがときに我々の眼に奇妙奇天烈に映るのは、我々は当然ながら絶滅を免れた生き物たちの子孫しか見慣れてないからだ。実際、現在の生き物の分類体系の中に収まりきらないような絶滅種も少なくないようである。

「カンブリア爆発」を、多種多様な能力、かたち、生活様式をもったもののうちどんな生き物が命を継いでいけるかという生物進化の壮大な試行錯誤だったと解釈すると、自分だったらどんな生き物を創造するか考えてみるのも面白そうだと今回の制作を思い立った。